

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

|                     |  |            |     |            |         |
|---------------------|--|------------|-----|------------|---------|
| 都道府県・指定都市番号         | 23   | 都道府県・指定都市名 | 愛知県 | 研究課題番号・校種名 | 3(4)小学校 |
|                     |  |            |     | 領域名        | E S D   |
| 研究課題                | 新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究<br>(4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 |            |     |            |         |
| ふりがな<br>学校名 (児童生徒数) | おかざきしりつおとがわしょうがっこう<br>岡崎 市立男川 小学校 (児童数601人)  |            |     |            |         |
| 所在地 (電話番号)          | 愛知県岡崎市大平町字中道17番地 (0564-22-1159)  |            |     |            |         |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL   | <a href="http://www.oklab.ed.jp/weblog/otogawa/">http://www.oklab.ed.jp/weblog/otogawa/</a>  |            |     |            |         |
| 研究のキーワード            | ・ E S Dカレンダー ・ 重点単元指導計画 ・ 専門家から学ぶ授業<br>・ 男川ユネスコフェスティバル ・ 学習過程 (ひとり学習, 関わり合い, 振り返り)   |            |     |            |         |
| 研究成果のポイント           | ① 「E S Dカレンダー」や「重点単元指導計画」の作成による見通しをもった学習の構想<br>② 専門家から「最先端の科学」に触れることによる子供の学びの広がり<br>③ 「男川ユネスコフェスティバル」の開催の効果<br>④ 「元気調べ」で培った相手を意識した表現が活かされる「関わり合い」                            |            |     |            |         |

1 研究主題等

(1) 研究主題

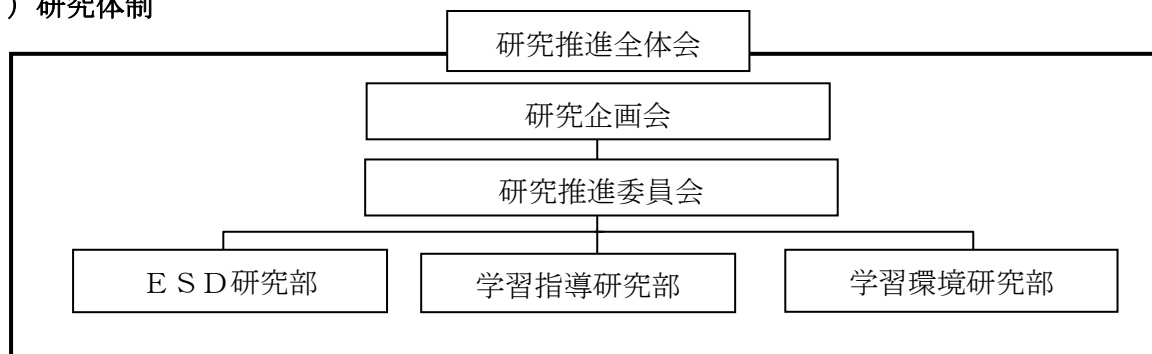
E S Dの視点に立つ教科学習の展開

～相手意識をもって関わり合い、思考・判断・表現できる子供の育成～

(2) 研究主題設定の理由

本校は、平成24年度よりユネスコスクールに加盟し、E S Dの視点に立った教科学習を進めている。各教科、及び道徳、総合的な学習の時間を合科的に扱い、大単元を設定することによって、子供たちは、「ひと・こと・もの」の「つながり」を意識し、共に生きる未来を作るために自分の見方や考え方をもつことができると考えた。そのために、各教科で得た知識を基盤に、自ら課題を見付けて追究し、他者と関わりながら積極的に交流する姿勢を子供たちにもたせ、一人一人に豊かな「思考力・判断力・表現力」を付けていきたい。そこで、教科学習の展開を柱に、関わり合いを大切にしたいE S Dの学びに取り組むことにした。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

|                |     |   |
|----------------|-----|---|
| 平成<br>26<br>年度 | 4月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会 講話「研究主題のとらえ方と研究の進め方」講師：校長，研究部</li> <li>・自主研修会「学級組織の作り方」「学級開きの留意点と指導の実際」講師：教頭</li> <li>・自主研修会「E S Dとは」講師：研究部長</li> </ul>   |
|                | 5月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会 講話「具体的な授業展開の指導の要所」講師：校長，研究部</li> <li>・師範授業参観 6年1組 算数 授業者：校長</li> <li>・研究全体会 講話「本校のE S Dのとらえ方」講師：校長</li> </ul>   |
|                | 6月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究会 講話「授業づくりの基本姿勢」<br/>講師：金津 琢哉 氏（東海学園大学准教授，元学習研究連盟研究部長）</li> </ul>   |
|                | 8月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会 協議「7月までのE S D重点単元の考察と今後の課題」，研究部</li> <li>・研究全体会 講話「授業構想とE S D」「全国の研究推進の動向」講師：校長<br/>講師：伊倉 剛 氏（文科省国立教育政策研究所，研究開発部研究開発課指導係長）</li> <li>・自主研修会「教材研究の要所と指導案の書き方」講師：研究部長</li> </ul> |
|                | 9月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会 協議「9月からのE S D重点単元の検討」，研究部会</li> <li>・授業研究会 講話「E S Dの進め方と思考力・判断力・表現力の育成に向けて」<br/>講師：田村 学 氏（文科省国立教育政策研究所，教科調査官）</li> <li>・自主研修会「教育論文の書き方」講師：研究部長</li> </ul>                     |
|                | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究会 講話「E S Dをとらえた学習指導」<br/>講師：杉澤 学 氏（奈良女子大学附属小学校教諭，生活科・理科教科書執筆者）</li> </ul>   |
|                | 11月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会 協議「これまでのE S D重点単元の考察と今後の検討」，研究部会</li> <li>・全学級研究授業，授業反省会 指導：岡崎市教育委員会，岡崎市教科領域指導員</li> </ul>  |
|                | 1月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究会 講話「言語活動を踏まえた指導と評価の在り方」<br/>講師：佐藤 洋一 氏（愛知教育大学教授，国語科教科書執筆者）</li> <li>・校内授業研究会 講話「E S Dをとらえた単元構成の仕方」<br/>講師：小幡 肇 氏（愛知学泉大学講師，生活科教科書執筆者）</li> </ul>                              |
|                | 2月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会「男川ユネスコフェスティバル」<br/>E S Dの学習成果の発表，学びの交流（保護者参観により地域に発信）</li> </ul>  |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① E S Dの視点に立ち，教科・領域を合科的に扱い，大単元を設定することによって，子供たちが「ひと・こと・もの」の「つながり」を意識し，共に生きる未来を作るために，自分の見方・考え方もつことができるようにする。

- ・教科や単元をつなかりを明確にする「E S Dカレンダー」の作成
- ・指導内容と目標を明確にする「重点単元指導計画」の作成
- ・専門家から知識を得たり，感動を味わったりする授業の実施
- ・E S Dで学んだことを発表する「男川ユネスコフェスティバル」の開催

② 学習指導において，「ひとり学習」を基盤にした「関わり合い」や「振り返り」を重視した授業展開を工夫し，子供たちの思考力・判断力・表現力を高める。

- ・「ひとり学習」を充実させる個別支援
- ・相手を意識して語る話型や受け応えの仕方を培う「元気調べ」の時間
- ・新たな視点に触れる「関わり合い」と本時の学びの「振り返り」

## (2) 具体的な研究活動

### ① 教科と単元をつなぐ「ESDカレンダー」と重点単元指導計画

各教科と総合的な学習の時間における単元のつながりを明確にしたESDカレンダーを作成した。次に、3年生「男川の昆虫博士になろう（生物多様性の実践）」の例を挙げる。

| 第3学年1組 ESDカレンダー |                                 |    |                        |                            |   | 愛知県岡崎市立男川小学校 |                                 |     |                                |      |    |    |
|-----------------|---------------------------------|----|------------------------|----------------------------|---|--------------|---------------------------------|-----|--------------------------------|------|----|----|
| 教科領域            | 4月                              | 5月 | 6月                     | 7月                         | 8月  | 9月           | 10月                             | 11月 | 12月                            | 1月   | 2月 | 3月 |
| 国語              | 元気調べ（相手意識をもった聴き合い）              |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
|                 | 春の自然                            |    |                        | 夏の自然                       |   |              | 秋の自然                            |     |                                | 冬の自然 |    |    |
|                 | すいせんのラッパ<br>（春の訪れと動植物の変化）       |    |                        | 自然のかくし絵<br>（虫の保護色）         |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 算数              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 理科              | 自然かんさつをしよう<br>（季節と生き物の活動）       |    |                        | 植物を育てよう<br>（種の保存）          |   |              | 太陽の動きと地面の様子を調べよう<br>（気温と動植物の活動） |     |                                |      |    |    |
|                 | ふるさと男川のこん虫はかせになろう               |    |                        |                            |   |              | （生物多様性・昆虫との共生）                  |     |                                |      |    |    |
|                 | こん虫を育てよう<br>（昆虫の変態と成長）          |    |                        | 動物のすがたとかんきょう<br>（昆虫の生態と環境） |   |              | 昆虫模型と図鑑作成<br>（学びのまとめ）           |     |                                |      |    |    |
| 社会              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 総合              | 昆虫採集に行こう<br>（昆虫の住みか）            |    | 昆虫標本を作ろう<br>（昆虫の体のつくり） |                            | 虫博士から昆虫のひみつを<br>教えてもらおう<br>（昆虫の生態と環境への適応） |              |                                 |     | 男川ユネスコ<br>フェスティバル<br>（学びの伝え合い） |      |    |    |
| 特活              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 道徳              | くものすとチョウ<br>（生命尊重と食物連鎖のモラルジレンマ） |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 英語              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 音楽              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 図工              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 家庭科             |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |
| 体育              |                                 |    |                        |                            |   |              |                                 |     |                                |      |    |    |

（補足）岡崎市内の小学校は、「英語教育」の教育課程特例校として、1年生から英語の学習を実施

又、ESDカレンダーの内容を具体的にするため、学期ごとに重点的に扱う題材・単元について指導計画を立てた。教師自身が、地域素材や専門家の講師について検討を重ね、子供の思考の流れに寄り添い、その学びを発展させることができる支援を講じた。

### ② 専門的知識や技術に触れる授業

上の3年生「男川の昆虫博士になろう」の学習における専門家の実験を伴う講義では、チョウの羽化の瞬間や進化の過程を知る標本を観察することや、昆虫標本製作、ユスリカの覚醒実験などを行った。子供たちの知的好奇心は刺激され、必要のなくなった体の一部が退化したり変化したりするという新たに得た知識を、自分が追究している昆虫にも適用できないか、図鑑やインターネットで調べ始めた。又、チョウの口の形がストロー形ではなく、二枚の板が合わさっているという実態から、子供たちは、口の形と餌の食べ方、体の特徴と活動の仕方の関係に目を向け始め、その種特有の生態を調べたいという思いが生まれ、生態と環境のつながりについての気付きを広げていった。

### ③ 学びを伝え合う「男川ユネスコフェスティバル」

各学級のESDでの取組を全校で共有し合う「男川ユネスコフェスティバル」を開催した。クイズ形式やロールプレイング、プレゼンテーションソフトの活用など、それぞれの学級が発表形態を

工夫し、聴く相手を意識して話した。発表会後の「振り返りカード」には、命や環境など他学級の学びに共感し、自分の見方や考え方を広げられた様子が伺えた。

#### ④ ひとり学習を充実させる個別支援

教科の単元における基礎的な知識を定着させ、その知識を基盤に課題に対する自分の見方や考え方をもちたせることが学びの柱となる。机間指導において、素早くその子の調べや思い、戸惑いを把握することに心掛け、言葉をかけ続けた。又、図鑑を60冊ほどと一人一匹以上標本作成ができる教材の準備、そして、調べたことを書きとめていく用紙、まとめるのに時間のかかる子供には調べた事柄を項目立ておいたものを用意した。書くことに抵抗をなくすようにするなど、個を支援できる環境を整え続けた。

#### ⑤ 朝の「元気調べ」

本校では、朝の会で自由に意見を交わす「元気調べ」の場を設定している。ここで、相手を意識して語る話型や受け答えの仕方を身に付けている。相手に共感し、その理由を述べたり、相手とは違う考えの時には、代案を述べた上で質問したり、建設的に語り合う技術を磨いている。

#### ⑥ 「ひとり学習」を基盤にした「関わり合い」とその「振り返り」

友達が調べた昆虫の生態との類似点、相違点を出し合い、その理由を餌や住みか、活動といった科学的根拠をもって説明し合う「関わり合い」を行った。「違うと思う」という発表者と反する意見には、発表者に「反対されたけどどう思うかな」と切り返し、違った考えを受け入れられるよう声をかけ、新たな見方や考え方を引き出せるように支援した。学習指導案の計画の際には、本時でどのような能力や態度を高めようとしているのかを熟考して目標を設定した。授業の最後に「振り返り」を必ず記録し、今日の授業を通して生まれた気づきを書きとめ、学びの足跡を蓄積した。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- ① E S Dカレンダーや重点単元指導計画を作成することによって、E S Dの視点をもって大単元を構想する過程で教科や単元のつながりが明確になり、見通しを持って取り組むことができた。
- ② 専門家から知識や技術を教えていただいたことは、子供たちの知的好奇心が刺激され、学びが発展的に広がりをもせた。思考力・判断力・表現力の基盤となる一人学習の深まりに有効であったと考える。
- ③ 男川ユネスコフェスティバルの開催は、他学級の発表を聴くことによって、新しい見方や考え方をもちた感想が生まれた。自分の考えがどう変化したのかを振り返り、表現の仕方を思考・判断する学びの集大成となる場である。
- ④ 毎朝の「元気調べ」での語り合いは、人前で話すことに対する抵抗感がなくなり、相手を意識して話す場面が増えてきた。「関わり合い」での相手を説得する表現に生かされてきた。

#### (2) 課題

- ① 「関わり合い」を深めるために、その基盤となる「ひとり学習」における教材の充実や、子供の追究の深まりをもたらし専門的な知識や技術の探究をさらに進めていく必要がある。
- ② 「振り返り」から新たな課題へと、問題意識がつながる学習の流れを展開していきたい。
- ③ 教科学習の目標から 教科を通して学びを深めるE S Dの目標へのつながりを明確にしたい。

#### (3) 研究2年目へ向けての取組

- ① 「関わり合い」と「振り返り」の中で新たに生まれた見方や変化した考え方を、子供たちから表出させる教師支援
- ② E S Dの視点に立った学年間の系統的な教科学習の在り方